

注意点1



理論

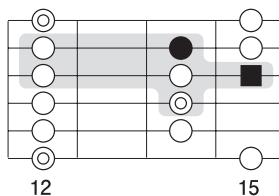
明るい雰囲気を持つ
6th音を活用せよ!

このメイン・フレーズはEマイナー・ペンタを中心に構成しているが、4小節目ではさらにペンタのスパイス音として定番のb5th音(B♭音=3弦15フレット)と、明るい雰囲気を持つ6th音(C♯音=2弦14フレット)を加えて、メロディ・ラインに広がりを与えているのだ(図1)。6th音は、マイナー・ペンタ側倒で弾くと、暗く渋い雰囲気になるソロを、少し明るく変化させたい時に使用することが多く、このメイン・フレーズのように半音チョーキングを使って7th音に繋げることもある。b5th音は経過音的な要素が強いのでロング・トーンでは弾きづらいが、6th音は長く伸ばしても良い。ちなみに、マイナー・ペンタに6th音と2nd音を加えるとドリアン・スケール【註】になる。

図1 Eマイナー・ペンタ+b5th音&6th音

◎トニック=E音 ■b5th音=B♭音 ●6th音=C♯音

・メイン・フレーズ4小節目



=4小節目のポジション。

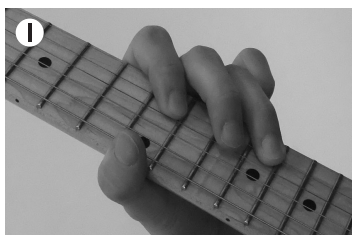
注意点2



左手

中指1本でのチョーキングで
スムーズな運指を実現しよう

メイン・フレーズのようにラン奏法をくり返すフレーズでは、スムーズなフィンガリングが必要になる。例えば1小節目1&2拍目では、2弦14フレットのチョーキングを中指1本で行なうと、左手の流れが滑らかになるだろう(写真①~④)。ここでは人差指も添えてチョーキングしたくなるが、そうすると人差指が次の2弦上でのプリングに間に合わなくなるので、人差指を2弦上で待機させることが大切だ。3弦は中指1本でしっかり押弦して、手首の返しを活用することで的確に弦を持ち上げられるだろう。ただし、余計な力が入ってしまうと中指の先端が4弦に引っ掛かって、中指を戻す時にノイズが発生するので注意すること。力強さと繊細さを併せ持ったプレイを目指そう!



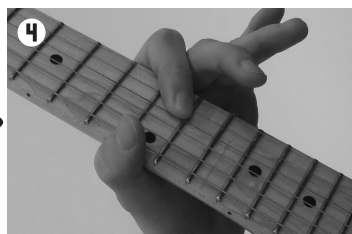
1小節目1拍目。2弦15fを薬指で押弦して……



プリングで12fを鳴らす。続く中指の準備をすること。



手首の返しを活用して中指1本でチョーキングする。



人差指は、先端を使って3弦のミュートも行なおう!

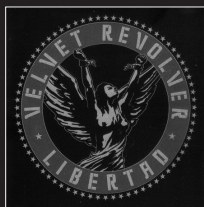
~コラム15~

教官の戯れ言

著者はガنزの1stアルバムを初めて聴いた時、彼らの“生々しくて悪そうなサウンド”にとっても驚かされた。しかし、何回か聴き込んでいくうちに、ワイルドな外見とは裏腹にリフやソロがかなり緻密に作り込まれていることに気がつき、コピー・バンドを組むほどのめり込んでいったのだ。スラッシュも一般的にはペンタを主体にしたブルース・ロック系ギタリストというイメージがあるが、著者はコード・トーンの使い方がウマク、テクニカルなプレイも可能な懐の深いギタリストだと思っている。ガنزよりもダークでヘヴィな雰囲気ヴェルヴェット・リヴォルヴァーでのプレイも要チェックだぞ!

著者・小林信一、かく語りき
スラッシュ編ガンズ&ローゼス
『アペタイト・フォー・ディストラクション』

全世界のロック・シーンに大きな衝撃を与えたデビュー作。荒削りだが、多彩かつパワフルなギター・プレイが満載の超名盤だ。

ヴェルヴェット・リヴォルヴァー
『リベルタド』

2007年にリリースされた2枚目。ハード・ロックとパンクが融合し、よりキャッチーなメロディを聴かせる強力作になっている。

【ドリアン・スケール】Eドリアン・スケールは、E音・F♯音・G音・A音・B音・C♯音・D音の7音によって構成される。ちなみに、ドリアン・スケールとはメジャー・スケールの第2音から展開させたスケールだ。